

ヤフー宿泊予約 ペイパル決済

訪日客にアピール

ヤフーはインターネットでの宿泊予約事業を強化する。外国人の利用が多い米ペイパルの決済サービスを導入し、訪日客などを取り込む。子会社で高級ホテル予約の「一休」も「廉価版」サイトを新設し、より幅広い層にアピールする。ヤフーの予約サイト「ヤフートラベル」は他社サイトからの転載情報を中心に独自性が乏しい。違いが出せるサービスやプランを充実させて、先行する楽天などを追いつく。

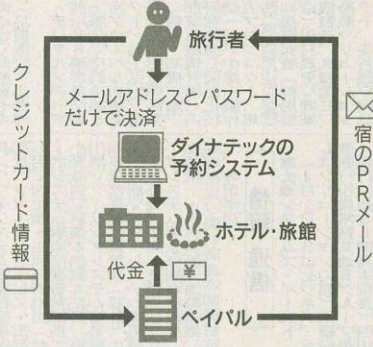


一休は宿泊費が従来よりも低価格の旅館の取り扱いも始める

昨年買収したダイナテックが全国約2400のホテル・旅館に提供する予約システムで、7月か

一休は「廉価版」新サイト

クレジットカード情報を宿泊施設に提供せずに予約できる
(ダイナテックとペイパルの協業の仕組み)



らペイパルの決済サービスを使えるようにする。現在、ヤフートラベルに掲載しているダイナテックの取引施設は約400カ所だが、ペイパル導入を機に拡大スピードを上げる。ヤフートラベルに掲載する独自施設の比率も、現在の2%から2020年には10%以上を目指す。ペイパルの決済サービスは利用者がクレジット

約1億8000万人が使用し、取扱額は年2800億円に達するとされる。日本国内でも100万人程度の利用者がいる。今後、ペイパルはダイナテックのシステムを導入している宿泊施設の情報を会員向けのメールサービスなどで紹介していく。ダイナテックは拡大する訪日客の利用増が見込めることをアピールして、宿泊施設に売り込む。現在、予約システム市場でのダイナテックのシェアは約2割だが、20年までに3割に引き上げる。2月に子会社にした一

者の事業強化も進める。4月に旅館やリゾート専用予約サイト「一休ドットコム キラリ」を新設する。現在の「一休」の予約サイトは1人1泊5万6千円程度の宿泊施設が中心だが、新サイトは3万5千4千円の約100軒の施設を載せる。名湯や食材、ベッド専用など目的別に検索できるようにして、「高級」以外の切り口を求める顧客層を開拓する。

ネット経由の旅行予約は電子商取引（EC）で大きな分野。経済産業省によると旅行分野の消費